

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500821		
法人名	医療法人十全会		
事業所名	グループホームまさき Aユニット		
所在地	長崎県佐世保市江迎町猪調1062-3		
自己評価作成日	令和5年11月1	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 5年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「和顔愛語」を基本理念とし、いつも笑顔で心のこもった言葉かけを心掛けています。利用者様、そのご家族の不安、心配事などを職員一丸となって取り除くことのできる介護を行う。コロナ禍で面会、外出が制限されていたが外出困難な終末期の利用者様には、ご家族と自室での食事会を楽しんで頂ける場の提供を行い感謝の言葉を頂いております。また、体調悪化のため、病院療養が望ましい利用者様に対しても、本人・御家族よりまさきに帰りたいと要望を受け、母体病院との医療連携強化し急変時入院、容態安定後は帰所し経過観察行っています。今後も、利用者様一人一人の暮らし、想いに寄り添ったケア・対応が出来るように、母体病院の主治医に相談、指示のもと職員一丸となり一人一人にあった介護を目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近くの母体医療機関と共に地域に浸透しており、地域住民が災害訓練に参加したり、何か手伝うことがあれば協力の声掛けがある。また利用者や家族の繋がりを大切に考え、小さな変化でも電話連絡を密に行い、家族が意見や要望等を気軽に話せる関係作りに注力している。利用者の一人ひとりの暮らし方への思いや習慣を把握し、起床、就寝、食事時間など柔軟に支援している。健康管理は、医師、看護師の定期的な検診や医療連携体制の確立で、重度化した場合や看取り支援まで希望に応じている。また職員の研修受講も多く、身体拘束廃止の研修後にマスターテストを行って理解を深めており、拘束の無いケアへの強い思いが感じられる。更に理念の「和顔愛語」を共有し、全職員が笑顔で愛情のこもった言葉掛けに取り組みしており、利用者の思いに沿ったケアの実践により、自宅の延長のように自由で、穏やかに暮らせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を理解し理念に沿ったケアを実践している。	「和顔愛語」を理念に掲げ、理念を理解し、管理者と職員が笑顔で心のこもった声掛けを行っている。更に介護理念の「親孝行」に取り組み、自分の親だったらとの思いで支援しており、理念の具現化がみえる。また「よく笑い、よく語ろう、まさきの輪、地域の輪を大切にしよう」の介護目標を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域との繋がりは少ないが近隣の方に野菜を頂いたり散歩時に会話ができています。	地域代表が災害訓練に参加し、見守りなど手伝うことがあればとの声掛けがある。隣人とは親しく交流している。また地域住民と挨拶を交わし、果物や野菜、花などの差し入れも多い。コロナ禍以前は幼稚園児の訪問もあったが、現在は七夕作品などのプレゼントが届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	火災訓練には、近隣住民も参加し事業所に対して理解が深まるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では運営推進委員様との相談により、今年度も書面会議での報告になっている。双方の意見交換に繋がるようアンケートを実施し意見を汲み取っている。	年6回、コロナ禍で書面会議での開催である。サービス提供状況、特記事項、ヒヤリハット、研修報告など詳細な議事録で確認できる。課題であった参加者からの意見の聴取に取り組み、アンケートを用いて意見が届いている。ただし、議事録が開催月のみの記載で、提出日や参加メンバーの明記はこれからである。	更なる運営推進会議議事録の充実のため、提出日や後日に参加メンバーの確認ができるよう、参加メンバーの明記も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告の際、行政からも意見を頂いている。 運営における手続きなど長寿社会課へ確認している。	介護保険の申請や手続き等は、近くの支所に出向き、行政との連絡は主にメールでのやり取りである。担当課職員の訪問もあり、相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。市主催の研修は、リモートで参加している。包括支援センターとも、相談や問い合わせ等を行い連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングや身体拘束委員会で問題点や何が不適切ケアになるのかを再認識している。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会が研修を行い、研修後にはテストを実施し、理解を深めている。スピーチロックの研修も行い、「少し待って下さい」の後には必ず理由を伝えている。玄関の施錠は夜間のみある。窓から出る素振りがあれば、常に見守り支援を行い、抑圧感のない支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し事業所内で内部研修を行い気づきや理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の担当者と連絡を取り理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、個々に説明し、理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に意見や要望などを伺うようにしている。 体調面や生活の様子なども随時報告している。	利用開始時に外部相談窓口の説明を行っている。毎月のホーム便りは写真を添え、郵送している。家族の訪問時や電話で状況を報告し、家族等の思いや意見を気軽に話してもらえよう努めている。重度化した利用者と家族の食事を居室で行った事例もあり、本人、家族の思いや要望に沿えるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の中で、意見や提案を聞いている。 個人的な悩み、相談など面談も行う。	職員は、定例会のみでなく申し送り時や業務中にも、意見や提案を出している。管理者は常に意見を聞くことを気掛け、必要に応じて個人面談を行い事務長にも報告している。職員が提案した業務改善の一つとして、シーツの交換方法への反映がある。職員のチームワークも良好で、働きやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や勤務状況は把握している。働きがいのある職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に合わせたWeb研修を活用しスキルの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議や、勉強会の機会があり参加できている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談し情報収集や本人との会話の中で信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段から家族と電話を含め対話する機会を多く持てるようにコミュニケーション作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望に対し支援内容を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し出来る事は自身で行い役割を担って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の新聞のほか、行事などの写真を送り、必要時、電話にて本人の状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限もあるが、出来る範囲での、知人・友人との交流が持てるように、感染対策を行った面会が出来るようにしている。	職員は利用開始の基本情報等で、生活歴や習慣など把握している。家族や近所の友人、知人の面会も玄関先で出来ている。家族と告別式に参列できた利用者もいる。行きつけの美容院を一日、貸し切りにして何名も利用できた事例がある。自由な携帯電話の使用の他、日記をつけたり、メモする習慣の継続もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や関係性を考慮した座席の配置や、必要に応じて席替えを行い職員が間に入りながら会話、レクレーションが出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡や相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、希望や意向を汲み取るようにし、家族の協力を得られるよう協力要請し本人本位の生活のが送れるように努めている。	昔話や会話で得た情報は、申し送りで共有し、ケアプランに盛り込んでいる。また起床、就寝、食事時間等柔軟に対応したり、甘い珈琲や食べたい物など希望に沿っている。難聴がある場合は、耳元でゆっくり話し、表出が難しい利用者は家族に相談したり、身振り手振りで伝え、表情や仕草などからも思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴、暮らし方などの情報を本人・御家族・居宅ケアマネジャーの情報から把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせ、時間・スケジュールにとられない生活を送って頂くと共に、職員間で日々の変化、状態観察を行い本人の状態・力量にあった生活を送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活において些細な変化を見逃さず、気づきがあれば、カンファレンスを行い必要に応じて本人・御家族との話し合いを行いケアプランの評価、介護計画につなげている。	利用開始時の暫定プランは1ヶ月で見直している。ケアプラン作成時は家族に暮らし方の要望を聞き取り、モニタリング表を基に利用者担当の職員がモニタリングし、カンファレンス、担当者会議を経て作成している。主治医の意見や日常生活の中で聞き取った利用者の思いを取り入れ、本人本位のケアプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティング・モニタリングや個別記録、カンファレンスによって介護経過記録の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの支援困難者・独居の方などへの他科受診・生活用品の買い物支援など柔軟に対応している。また、外気浴しながらの面会困難な方へは、感染対策を行った自室での面会にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カット利用。介護用品業者訪問による介護用品の購入に対し、本人に選んで頂ける場の提供を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診対応の他、体調不良時には速やかに受診できるように支援している。	主治医は家族や利用者の意向に沿って決めている。協力医療機関は母体法人であり、毎月の定期受診は職員が同行している。また、毎週看護部長の訪問があり健康観察を行っている。他科受診や協力医療機関以外の受診は家族が付き添い、受診時の内容は互いに報告している。夜間の急変時の対応について職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に、母体病院の看護部長が、健康観察を行いアドバイスを受け、看護部長自ら、情報を主治医に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は母体病院と密に連携を図り情報交換や相談ができる体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人・家族の意向を確認し主治医と今後の方針について話し合い本人・家族の意向に沿った支援を行っている。	契約時に重度化や看取りの指針を家族に説明し意向を聞き取っている。重度化の時は状況の変化の都度、家族の意向を確認している。看取りのぎりぎりの状況で協力医療機関へ入院する利用者が多く、事業所での看取りの事例はなく、職員研修等の取組はこれからである。	今後の看取りに備え、職員の不安を軽減するためにも、研修等の取組に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は母体病院との連携体制が整備されている。マニュアル作成し、常に確認出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の火災訓練、年1回の防災訓練を実施している。地域との協力体制ができている。	火災避難訓練は年2回、1回は夜間想定で行い、自然災害の避難訓練を1回実施している。消防署立会いはコロナ禍で中断している。備蓄や非常持ち出し品を整備し、各利用者災害時支援カードを作成し備えている。地域の協力体制は構築されている。ただし、避難訓練実施後の総括は口頭のみである。	訓練実施後の気づきや総括は、課題を次回訓練に繋げるために重要である。記録の手段や方法について検討、取組が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の暴力、虐待になる事がないように常に心掛け、利用者様の尊厳を尊重できるような対応を行っています。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、苗字にさん付けで呼び掛け、羞恥心に配慮した入浴や排泄介助を行っている。個人情報の取り扱い、写真掲載を含め、同意の署名を得ている。また、書類や記録の保管場所も適切である。職員は守秘義務の誓約書を提出し、理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の介護の中での自然な会話により本人の希望を職員間で共有しカンファレンスを行い、本人の希望に沿ったケア・支援が行えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の状態に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや、季節にあった衣類の準備など行っている。また、介助を要する方には、その都度状況にあった支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理補助(野菜の皮むき)や、お盆拭きテーブル拭きなどの手伝いを行っている。	昼、夕は配食業者へ委託し、朝食は職員が調理している。嗜好やアレルギーに対応し、嚥下状態に合わせて提供している。夏の鰻弁当や秋のふかし芋は好評で、誕生日はケーキで祝っている。職員は食事の希望は叶えたいと希望があれば別メニューで作り、コーヒーはそれぞれの好みの濃さに合わせるなど食を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事形態一覧表を作成し個別に対応。 ・口腔内の状態に応じたカット食材の提供 ・食思低下傾向の方に合わせた食事提共		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、洗面所に誘導し本人が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声掛けトイレ誘導を行い、個々に合わせた排泄用品をしようしている。	職員は日常の暮らしの中で、利用者の排泄リズムを把握し、変化を共有している。日中はトイレでの座位排泄を基本として、声掛けや誘導の排泄支援を行っている。また、状態に合わせた支援方法の工夫やパッド類の検討を行っている。リハビリパンツから布パンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、牛乳・ヨーグルト提供などで排便を促し、適度な運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調、希望に沿った入浴を行っている。	入浴は週2、3回を基本にしており、体調や気分に合わせて臨機応変に対応している。車椅子の利用者は2人介助で浴槽へ浸っている。入浴出来ないときは、清拭や足浴で清潔の保持を行っている。現在、希望者はいないが、希望があれば同性介助に対応している。入浴時には、利用者は職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内で自由に休息・臥床したり、就寝も個人の時間に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬はダブルチェックし誤薬がないようにしている。 ・薬変更時は状態観察や主治医への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたレクリエーション、脳トレーニング、手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類移行後も感染対策のため外出困難になっているため、買い物支援などは店舗内の集客の少ない時間を選び行った。外気浴しながら会話、歌を楽しむなど行っている。	日常的に天気の良い日は、車椅子の利用者も日光浴や外気浴し、気分転換を図っている。桜の花見には車椅子の利用者も一緒に出掛け、初詣やドライブ、買い物など感染リスクを避けながら行っている。また、家族と一緒に外出するなど楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話にて家族とのやり取りができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、時期に応じた飾りつけ空調、照明など快適に過ごせるように工夫している。	リビングや廊下にソファがあり、好みの場所で寛いだり、日光浴している。新聞購読、ゴミ袋作り、パズルや数字、文字のクロスワードなど得意なこと、好きなことを楽しむ様子が覗える。季節の花や時期に合った装飾で、季節感がある。希望で日中は畳の間で過ごす利用者もいる。掃除や除菌、換気も行き届き清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを設置、ウッドデッキでも日光浴・外気浴を、各々が自由に楽しめる場所があり畳スペースもある為、自由に使用出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、自宅での愛用品(タンスなど)を持ち込まれている。お位牌、家族の写真などもあり、居室内で心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室は、ベッドとクローゼットを設置し、テレビ、仏壇や整理タンス、手作りの木目込み人形、時計、家族等の写真など、馴染みの愛用品を自宅から持参している。毎朝、仏壇に水をあげる利用者もいる。掃除や換気、温度、湿度調整など職員が行い、乾燥予防に濡れタオルを掛けるなど、居心地よく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の家具・ベットの配置は、安全確保を行いながらも、本人の意向に沿った配置を行い自立支援に向けた環境作りを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500821		
法人名	医療法人十全会		
事業所名	グループホームまさき Bユニット		
所在地	長崎県佐世保市江迎町猪調1062-3		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和	年	月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入所しながら住み慣れた地域での暮らしの維持に努め個々の利用者の暮らしの意向や認知症の症状に寄り添えるような支援に心掛けている。 ・毎月、まさき通信を発行しており行事や施設内の様子を発信し家族と利用者の繋がりを大事にしている。 ・利用者の病状により訪問診療を取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を理解し理念に沿ったケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過により地域とのつながりは少ないが近隣の方に野菜を頂いたり散歩時に会話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	火災訓練には近隣住民も参加し事業所に対しての理解が深まるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では今年度も書面会議での報告になっている。双方の意見交換に繋げるよう、アンケートを実施し意見を汲み取っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告の際、行政からも意見を頂いている。 運営における手続きなど長寿社会課へ確認している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングや身体拘束委員会で問題点や何が不適切ケアになるのかを再認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し事業所内で内部研修を行い気づきや理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の担当者と連絡を取り合い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、個々に説明し理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に意見や要望などを聞くようにしている。 体調面や生活の様子なども随時、報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の中で意見や提案を聞いている。 個人的に悩みや相談など面談も行う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や勤務状況は把握している。 働きがいのある職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に合わせWeb研修を活用しスキルの向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議や勉強会の機会があり参加できている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談し情報収集や本人との会話の中で信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段から家族と電話も含め対話する機会を多くもてるようにコミュニケーション作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望に対し支援内容を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し出来ることは自身で行い役割を担って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の新聞に行事などの写真を送り必要時、電話で本人の状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室利用を継続して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を築くため交流を見守ったり間に入ることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡や相談などがあれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活する中で本人が望む暮らしを聞き出す努力をしている。困難な方には本人が好きであろう事から近づけるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談、基本情報により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の記録にて状態観察を行い職員間で情報の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題について、その都度、チームで話し合い意見を出し合っている。実践し変更に至るときもある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に残し情報共有できている。カンファレンス、実践、モニタリングに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により他科受診対応や本人の希望時には食事の別メニューでの提供を行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カットを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診対応の他、体調不良時には速やかに受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、水曜日に母体病院の看護部長が健康観察を行いアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は密に母体病院と連携を図り情報交換や相談ができる体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は本人、家族の意向を確認し主治医と今後の方針について話し合い支援につなげている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は母体病院のと連携体制が整備されている。マニュアル作成し常に確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の火災訓練、年1回の防災訓練を実施している。地域との協力体制ができている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の暴力、言葉の虐待に気を付け利用者の尊厳を守った対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	夜勤帯の時間を利用し本人の思いや希望を聞いている。ケアプランに反映できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課に合わせず起床、就寝時間も自由にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由におしゃれを楽しみ介助が必要な方は衣服の調整を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好きな物を取り入れ献立に反映している。食後の食器洗い、後片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態に基づき摂取量を把握している。栄養補助食品の提供も行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインの把握に努め時間誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品の提供を行い、困難な方は水分補給ゼリーを取り入れ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に合わせてタイミングを見計らっている。柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々に合わせ自由に休息できるようにしている。就寝時間も生活習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はダブルチェックし誤薬がないように気を付けている。変更時は状態観察や主治医への報告も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて役割を担い得意なことを生かし気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦で外出支援ができなかったが天気が良い日は玄関先で外気浴を楽しんだ。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は自由に所持し買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者は自由に家族と連絡を取り会い、手紙のやり取りも出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り時期に応じた飾りつけ、空調、照明など快適に過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のソファーでは日光浴をしながら雑談、数カ所に椅子を起き自由に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物の持ち込みや家族の写真を飾り安心して過ごせるよう居心地の良い工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のトイレやベッドの配置など個々に合わせ自立支援に向けたケアを実施している。		